

資料 1

令和 7 年度第3回
川崎市上下水道事業
経営審議委員会

川崎市上下水道事業中期計画 令和 6 年度実施結果について

川崎市上下水道局

*Waterworks and Sewerage Bureau
City of Kawasaki*

- 1 「取組の達成度」の評価結果**
- 2 「施策への貢献度」の評価結果**
- 3 「今後の取組の方向性」の評価結果**
- 4 令和6年度の主な取組結果**

1 「取組の達成度」の評価結果

3

9取組については、「入札不調による工事着手の遅れ」、「施工工程の見直しが生じたことより関係者との協議に時間を要したため」などから、目標を下回りました。

その他51取組は目標をほぼ達成しており、全体としての取組目標は順調に達成しました。

達成度区分		該当例	基本目標			合計
			I	II	III	
1	目標を大きく上回って達成	◆目標に明記した期日よりも相当早く達成し、そのことによりコスト面や市民サービスに大きく貢献した。 ◆目標に明記した内容よりも相当高い水準であった。 ◆目標に明記した数値を大きく上回った。	0	0	0	0
2	目標を上回って達成	◆目標に明記した期日よりも早めに達成し、そのことによりコスト面や市民サービスに貢献した。 ◆目標に明記した期日どおり達成し、明記した内容よりも高い水準であった。 ◆目標に明記した数値を上回った。	3	1	0	4
3	目標をほぼ達成	◆目標に明記した期日、内容どおりに達成した。 ◆途中で多少の遅れはあったものの、最終期限には間に合う形で、目標に明記した内容どおりに達成した。 ◆目標に明記した数値とほぼ同じであった。 ◆おおむね適正に処理し業務遂行に支障がなかった。	19	16	12	47
4	目標を下回った	◆目標に明記した内容は達成したが、期日が遅れた。 ◆目標に明記した期日どおりであったが、明記した内容に満たない水準であった。 ◆目標に明記した数値を下回った。 ◆所定の期日に間に合わないなど、業務を適正に処理できなかった。	6	2	1	9
5	目標を大きく下回った	◆目標に明記した期日よりも遅れ、明記した内容に満たない水準であった。 ◆目標に明記した数値を大きく下回った。	0	0	0	0

2 「施策への貢献度」の評価結果

4

4取組については、「地中障害物の影響による工事の遅れ」などで目標を下回りましたが、施策の効果に対する影響を考慮し、「やや貢献している」の評価になりました。

その他56取組は、それぞれの取組内容及び指標等は施策の効果との関係性が強く、取組を実施することで、施策の効果に寄与することから、施策への貢献が図られました。

貢献度区分		該当例	基本目標			合計
			I	II	III	
A	貢献している	取組の結果が、施策の効果に対して良い影響を与えている場合	26	17	13	56
B	やや貢献している	取組の結果が、施策の効果に対してやや良い影響を与えている場合	2	2	0	4
C	貢献の度合いが薄い	取組の結果が、施策の効果に対してあまり良い影響を与えていない場合	0	0	0	0

3 「今後の取組の方向性」の評価結果

5

基本目標Ⅰの1取組は計画通りに取組を終了しました。また、現状のまま継続する取組が48取組、改善しながら継続していく取組が11取組ありました。

令和7年度については、これらの方向性を踏まえた取組を推進していきます。

方向性区分		該当例	基本目標			合計
			I	II	III	
I	現状のまま継続	計画どおり取組を継続する場合	25	17	6	48
II	改善しながら継続	事業費等は変更せず、社会環境の変化や課題に対応するため、取組の手法等を見直す場合	2	2	7	11
III	取組規模拡大	計画事業費に対して予算や人員等を増加させ、一層の課題解決を図る場合	0	0	0	0
IV	取組規模縮小	計画事業費に対して予算や人員等を縮減させ、効率化等の改善、改良、見直しを図る場合	0	0	0	0
V	取組廃止	見直し等により取組を廃止する場合	0	0	0	0
VI	取組終了	計画どおりに取組を終了する場合	1	0	0	1

4 令和6年度の主な取組結果

6

基本目標 I	安定給水の確保と安全性の向上							
施 策 1	水道水・工業用水の水質管理の徹底							
取 組 2	安全でおいしい水の取組							
取組の概要	水源から給水栓まで水質管理を徹底するとともに適正で信頼性の高い水質検査を実施し、安全でおいしい水を供給します。							
指標分類	指標名 説明	目標・実績	R3	R4	R5	R6	R7	策定目標値
成果指標	水道水質基準適合率 給水栓における水道法に基づく水質基準を満足した検査回数/給水栓における水道法に基づく水質検査回数×100(%)	目標値	-	100%	100%	100%	100%	100%
		実績	100%	100%	100%	100%		
成果指標	残留塩素濃度低減化目標達成率 水質自動測定装置による残留塩素濃度0.3～0.5mg/Lの測定回数/水質自動測定装置による残留塩素濃度全測定回数×100(%)	目標値	-	60%	60%	60%	75%	75%
		実績	62.2%	65.5%	76.8%	75.1%		
取組内容の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・水安全計画のPDCAサイクルが適切に機能して良質で安全な水道水を供給することができました。 ・水質検査計画に基づいた検査を実施し、その結果をWEBサイトや広報紙において情報提供しました。 ・水道GLPに従い、検査精度と信頼性の確保をしました。 ・水温や浄水場からの送配水に係る時間等を考慮して浄水場出口の残留塩素濃度の設定を適宜変更し、適切に管理しました。 ・水質自動測定装置で水質状況を監視しました。 ・水源で発生する藻類による浄水処理障害に対して、浄水用薬品の注入方法の検討・実験をしました。 ・WEBブラウザ上での情報共有ツールにより水源水質検査結果や水質事故情報を迅速に情報共有できました。 							
達成度	2	目標を上回って達成	今後の方向性					
貢献度	A	貢献している		安全でおいしい水を安定供給するため、徹底した水質管理と適正な水質検査が必要なことから今後も取組を継続していきます。				
方向性	I	現状のまま継続						

4 令和6年度の主な取組結果

7

基本目標 I	安定給水の確保と安全性の向上							
施 策 3	水道・工業用水道の災害時における機能強化							
取 組 10	水道管路の耐震化							
取組の概要	水道管路の耐震化については、主に更新時期を迎えた管路を更新することで耐震化を進めていますが、管路延長は膨大であり、すべての管路を耐震化するには多くの時間を要することから、優先的に耐震化を進める管路を選定し、効率的・効果的に耐震化を進めます。							
指標分類	指標名 説明	目標・実績	R3	R4	R5	R6	R7	策定目標値
成果指標	管路全体の耐震化率 耐震化された管路の延長/管路の総延長×100 (%) ※管路の総延長約2,500km	目標値	-	40.1%	41.7%	43.3%	44.9%	44.9%
	実績	38.8%	40.8%	42.7%	44.1%			
成果指標	重要な管路の耐震化率 耐震化された重要な管路の延長／重要な管路の総延長×100 (%) ※重要な管路の総延長約800km	目標値	-	100%	100%	100%	100%	100%
	実績	96.2%	97.9%	98.2%	98.3%			
成果指標	消防署・警察署等の重要施設への供給ルートの耐震化完了率 耐震化が完了した重要施設数／重要施設の総数×100 (%) ※重要施設の総数は99施設（消防署、警察署、福祉施設）	目標値	-	-	22.2%	41.4%	56.6%	56.6%
	実績	-	-	22.2%	41.4%			
取組内容の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・水道管路の更新に合わせた耐震化については、管路の老朽度・継手構造・今後の工事量の平準化等を考慮して策定した更新計画に基づき、工事を発注し取組を推進しました。また、震災時の被害が懸念される老朽配水管についても、周辺管路の老朽度等を考慮しながら、効率的に耐震化を推進しました。 ・地震被害想定等を考慮した「新たな重要な管路」の耐震化の実施については、消防署、警察署や二次避難所となる入所型社会福祉施設など、災害時にも給水の継続が必要である施設への供給ルートを対象として耐震化を推進しました。 							
達成度	3	目標をほぼ達成	今後の方向性	いつでも安心して使用することのできる水道水を安定して供給するとともに、大規模地震発生時にも、市民生活への影響を最小限に抑えるため、引き続き更新時期を迎えた管路の耐震化を適切に実施する必要があります。 なお、成果指標である「重要な管路の耐震化率」については、目標を下回りましたが、その内、老朽配水管については、周辺管路の老朽度等を考慮しながら、効率的に耐震化を推進していきます。				
貢献度	A	貢献している						
方向性	I	現状のまま継続						

4 令和6年度の主な取組結果

8

基本目標 I	安定給水の確保と安全性の向上								
施 策 3	水道・工業用水道の災害時における機能強化								
取 組 12	工業用水道基幹管路の強化								
取組の概要	工業用水は3本の送水管にて臨海部を中心に送水しており、送水管を断水した場合には、工業用水道利用者の経済活動に大きな影響を与えることから、バックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化を図るため、長沢浄水場と生田浄水場を結ぶ浄水場連絡管及び3本の送水管を結ぶ送水連絡管の整備を実施します。								
指標分類	指標名	目標・実績	R3	R4	R5	R6	R7	策定目標値	
	説明	目標値	-	-	-	1路線	3路線	3路線	
成果指標	バックアップ機能強化のための管路整備 (計画期間内)	実績	-	-	-	0			
	計画期間内に完了予定のバックアップ機能強化のための管路整備路線数	目標値	-	-	-	1路線	3路線		
取組内容の実績	<p>・整備を予定している3路線のうち浄水場連絡管については、令和4年に工事着手しており、令和6年度も整備を推進しました。また、残る2路線である1・3号送水連絡管及び2・3号送水連絡管については、令和6年度の工事着手を予定していましたが、設計業務において、施工性や経済性に関する検討の見直しとそれに伴う関係者との協議等に時間を要したことから、令和7年度の工事着手となる予定です。</p>								
達成度	4 目標を下回った	今後の方向性							
貢献度	B やや貢献している		工業用水の安定供給を維持するとともに、大規模地震発生時にも、工業用水道利用者への影響を最小限に抑えるため、引き続き基幹管路の二重化・ネットワーク化を進めています。						
方向性	I 現状のまま継続								

4 令和6年度の主な取組結果

9

基本目標 I	安定給水の確保と安全性の向上							
施 策 5	水道・工業用水道の施設・管路の老朽化対策							
取 組 18	施設の計画的更新							
取組の概要	アセットマネジメントに基づき、適切な維持管理を実施し、施設の長寿命化を図るとともに、将来の更新需要の見通しを検討し、優先度を定めながら計画的な施設の更新を実施します。							
指標分類	目標名 説明	目標・実績	R3	R4	R5	R6	R7	策定目標値
設定なし		目標値	-					
取組内容の実績	<p>(水道事業) ・施設の更新・長寿命化については、長沢浄水場排水処理施設の更新工事を推進及び鷺沼配水池の長寿命化工事に着手しました。 また、千代ヶ丘配水塔（1号塔）更新工事に着手しましたが、2号塔の実作業の結果を踏まえ、1号塔においても、同様の低騒音・低振動による施工方法に変更するなど、施工計画を再度見直したことから、令和8年度末の完成予定となりました。 ・主要設備の計画的な更新については、3号・5号配水本管流量計等の更新を完了しました。</p> <p>(工業用水道事業)</p> <p>・施設の更新については、長沢浄水場排水処理施設の更新工事を推進しました。 ・主要設備の計画的な更新については、生田浄水場 1次濃縮槽汚泥掻き寄せ機等改良工事を推進しました。</p>							
達成度	3	目標をほぼ達成	今後の方向性	市民生活や工業用水道利用者の経済活動に必要な水道水・工業用水の安定給水を確保するため、引き続き、施設の計画的更新を推進します。				
貢献度	A	貢献している						
方向性	I	現状のまま継続						

4 令和6年度の主な取組結果

10

基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成							
施策9	浸水対策							
取組29	重点化地区・局地的な浸水箇所における浸水対策							
取組の概要	浸水リスクの高い重点化地区において浸水対策を進めるとともに、令和元年東日本台風により浸水被害が発生した排水樋管周辺地域（山王、宮内、諏訪、二子、宇奈根地域）をはじめ、地形的要因や排水施設の部分的な能力不足などにより発生している局地的な浸水箇所において、地域特性を踏まえた効果的な浸水対策を進めます。							
指標分類	指標名	目標・実績	R3	R4	R5	R6	R7	策定目標値
説明								
活動指標	浸水対策実施率（三沢川、土橋、京町・渡田、川崎駅東口周辺、大島、観音川地区）	目標値	-	29.3%	32.1%	35.3%	40.8%	40.8%
	重点化地区の浸水対策完了済面積／浸水対策重点化地区対象面積×100(%)	実績	26.4	29%	32.1%	35.3%		
活動指標	排水樋管周辺地域の浸水対策累計実施数 排水樋管周辺地域における短期対策、当面の対策、中期対策（計11対策）の実施数【】の値は、令和元年東日本台風当日の床上浸水面積に対する解消率（想定）を示す。なお、中期対策が供用された場合（令和9（2027）年度予定）、75.4%解消する見込み。	目標値	-	6対策 【65.2%】	7対策 【65.2%】	7対策 【65.2%】	7対策 【65.2%】	7対策 【床上浸水面積65.2%解消】
取組内容の実績	<ul style="list-style-type: none"> 重点化地区における雨水管きよなどの整備の推進については、三沢川地区、土橋地区において浸水対策工事を推進しました。また、京町・渡田地区、大島地区、観音川地区において、雨水貯留管としての機能を有する入江崎統合幹線の事業着手に向けて、工事用地の確保やルート選定に加え、早期の事業効果発現を考慮した施設計画の検討及び国費の取得に向けた国との調整を実施しました。さらに、川崎駅東口周辺地区において、既存管きよの改良によるさらなる有効活用や新たな雨水対策施設の整備等による効果的な対策の検討を実施しました。 局地的な浸水箇所における対策の推進については、排水樋管周辺地域における中期対策の推進に向け、ポンプゲート設備の構造や配置、施工計画等に関する詳細な検討を進めました。 							
達成度	3	目標をほぼ達成	今後の方向性					
貢献度	A	貢献している		重点化地区・局地的な浸水箇所における浸水対策は、浸水被害の最小化を図り、水害に強いまちづくりを進めるため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。				
方向性	I	現状のまま継続						

4 令和6年度の主な取組結果

11

基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成								
施 策 12	下水道の管きょ・施設の老朽化対策								
取 組 35	下水管きょの再整備								
取組の概要	施設の劣化状況を適切に把握し、中長期的な視点を踏まえ、リスクとコストのバランスを考慮しながら最適な管きょの再整備を行い、老朽化対策を進めるとともに、再整備と合わせて耐震化等の機能向上を図るなど、効率的・効果的に事業を推進します。								
指標分類	指標名 説明	目標・実績	R3	R4	R5	R6	R7	策定目標値	
活動指標	管きょ再整備率	目標値	-	36.9%	37.7%	39.0%	39.8%	39.8%	
	再整備実施延長/再整備対策延長×100 (%) ※再整備対策延長：入江崎処理区及び加瀬処理区の一部	実績	36.4%	36.9%	37.7%	39.0%	-		
活動指標	汚泥圧送管の再整備率	目標値	-	12.5%	12.5%	12.5%	25.0%	25.0%	
	再整備完了箇所数/再整備対象箇所数×100 (%)	実績	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	-		
取組内容の実績	・老朽化した下水管きょの再整備の推進については、管きょ再整備重点地域として位置付けた入江崎処理区及び加瀬処理区の一部において約7.3km実施するとともに、汚泥圧送管については、等々力水処理センター～戸手ポンプ場間の老朽化対策を推進しました。								
達成度	3	目標をほぼ達成	今後の方向性						
貢献度	A	貢献している		下水管きょの再整備については、安定的に質の高い下水道サービスを継続的に提供するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。					
方向性	I	現状のまま継続							

4 令和6年度の主な取組結果

12

基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成								
施 策 14	下水道の高度処理								
取 組 40	水処理センターの高度処理化								
取組の概要	東京湾流域別下水道整備総合計画で定められた目標水質の達成に向け、今後も富栄養化の原因物質とされる窒素やりんの除去などを目的とした取組を進めます。								
指標分類	指標名 説明	目標・実績	R3	R4	R5	R6	R7	策定 目標値	
活動指標	高度処理普及率	目標値	-	59.3%	59.3%	100%	100%	100%	
	全高度処理能力／全計画処理能力 ×100(%) ※高度処理として取り扱うことのできる処理方法等を含む。	実績	59.3%	59.3%	59.3%	79.0%	-		
取組内容の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・水処理センターの施設整備による更なる高度処理化の推進については、等々力水処理センターにおける更なる高度処理化に向けた流量調整池の工事にあたり、想定外の地中障害物の撤去に不測の日数を要したため、目標を下回りました。今後は、令和7年度の工事完成に向けて、工程管理の徹底に努めていきます。 ・既存施設の一部改造や運転管理の工夫による段階的高度処理の導入に向けた取組の推進については、入江崎水処理センター（東系）において、水槽内における風量及び返送汚泥率（硝化液の循環）の制御を行う等、既存施設を活用した運転管理の工夫による段階的高度処理の導入が完了しました。 								
達成度	4 目標を下回った	今後の方向性	高度処理事業は、東京湾の水質環境基準を達成・維持し、快適な水環境を確保するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。 また、活動指標である「高度処理普及率」は目標を下回りましたが、等々力水処理センターの更なる高度処理化について、令和7年度の工事完成に向けて、引き続き工程管理の徹底に努めていきます。						
貢献度	B やや貢献している								
方向性	I 現状のまま継続								

4 令和6年度の主な取組結果

13

基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保							
施 策 20	お客さまとの信頼関係の構築							
取 組 48	川崎の上下水道の魅力の情報発信							
取組の概要	公営企業として、上下水道利用者であるお客さまには、相互の信頼関係の下で適切なサービスを提供し、納得した上でその対価を負担していくために、様々な広報・広聴活動を行う必要があります。また、工業用水道事業では、工業用水道利用者と相互の信頼関係を築くため、工業用水道利用者協議会等を通じて、工業用水道利用者への情報提供やニーズの把握を継続的に行います。							
指標分類	指標名 説明	目標・実績	R3	R4	R5	R6	R7	策定目標値
設定なし		目標値						
取組内容の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「川崎市上下水道事業 広報戦略」に基づき、令和7年度広報実施計画を策定しました。 ・広報紙「かわさきの上下水道」については、取材型特集により紙面構成の改良を図り、併せて内部広報の充実にも寄与しながら、年4回発行しました。上下水道局ウェブサイトは適宜更新及び改良を行い、上下水道局Xも積極的に活用しながら、魅力的な情報発信を行いました。 ・山北町交流事業、みずみずフェア、上下水道局作品コンクール等のイベントを実施しました。 ・長沢広報施設「水とかがやく未来館」における見学案内を実施しました。 ・入江崎広報施設「ワクワクアクリア」における見学案内を実施しました。 ・広報紙のプレゼントクイズの既存の設問に広報活動に特化した設問を加えた広報ウェブアンケート及び、3年に1回行う市民意識調査を実施しました。 ・上下水道アプリJCM及び危機管理映像「防災のすすめ」を制作しました。 ・工業用水道利用者協議会幹事会に参加し、工業用水道事業の現状、課題、工事内容、会計報告等について、情報提供や意見交換を行うとともに、同協議会の施設見学会を長沢浄水場で受け入れ、利用者に対し取水や浄水、水質等の取組を紹介し、事業に対する理解を図りました。また、5月に全利用者を対象とした説明会を開催し、本市工業用水道の料金制度の見直し等について説明を行いました。 ・工業用水道利用者大手10社に対して、ゴールデンウィーク、お盆休み及び年末年始の予定使用水量の調査を実施しました。 							
達成度	3	目標をほぼ達成	今後の方向性	広報紙、ウェブサイト、イベントの内容等、逐次見直しを図りながら、より魅力的な広報活動を行う必要があります。さらに、市民意識調査及びウェブアンケート等によりお客さまの声を収集し、ニーズの的確な把握に努める必要があります。また、工業用水道利用者への情報提供やニーズの把握は継続的に行う必要があるため、引き続き実施していきます。				
貢献度	A	貢献している						
方向性	II	改善しながら継続						

4 令和6年度の主な取組結果

14

基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保							
施 策 23	持続可能な経営基盤の確保							
取 組 57	人材育成の推進							
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> 専門的な知識・技術・技能を確実に継承するため、職場におけるOJT（職務遂行を通じた教育訓練）を中心に、OJTを発展させた職場研修や局研修を実施するほか、専門的な知識や高度な技術の習得等を図るため、積極的に派遣研修や国内外の貢献活動への職員派遣を実施します。 組織の方針や使命、行動指針等を職員一人ひとりに浸透させ、職員の学ぶ意欲を生かす人材育成環境の整備等により職員の改革意識や意欲の更なる向上を図り、専門的な知識・技術・技能を確実に継承しながら、人材育成を効果的に推進します。 							
指標分類	指標名 説明	目標・実績 目標値	R3 -	R4 56.2%	R5 59.1%	R6 61.5%	R7 63.0%	策定 目標値 63.0%
成果指標	人材育成の取組の浸透度 局内全職員へのアンケート調査（4項目）における、人材育成の取組の浸透が見られる回答割合の平均	実績 52.9%	47.1%	44.7%	55.3%			
取組内容の実績	<ul style="list-style-type: none"> 所属の先輩職員を、入庁2年目までの指導を担当する育成担当者として活用するなど、各所属におけるOJTを推進しました。 業務遂行上必要な基本的な知識及び技術の習得と実務能力の向上を軸とした研修を実施しました。 職務を遂行する上で必要な高度・専門的知識及び技術を習得させるため、外部が主催する研修へ参加しました。 職場体験研修の実施や育成型ジョブローテーションに取り組むことにより、職員のキャリア形成の推進に努めました。 職場風土改善のため、職場提案、業務改善・研究発表会、ラウンドテーブルミーティング等を実施しました。 成果指標の浸透度アンケートでは、回答を記名式にするとともに、リマインドを行うことで数値の改善を図ったものの、依然として無回答者が多いことで正確な数値（浸透度）を把握することが困難になってしまったこと及びアンケート項目中、「組織風土の醸成」、「職場環境」、「成長や働きがい」の数値が低い結果となつたため、目標値を下回りました。 							
達成度	4 目標を下回った	今後の方向性	本取組は、継続することにより効果が出るものと考えているため、引き続き計画を実施していきます。今後については、今年度実施した記名式回答を継続するなどアンケートの回答率向上に向けた工夫を行っていきます。また、アンケート結果で数値が低かった項目（「組織風土の醸成」、「職場環境」、「成長や働きがい」）は、数値を上げるため、ラウンドテーブルミーティング等意見交換会のさらなる充実を図り、そこで得られた意見や、各職場訪問によって把握した状況を管理職にフィードバックすることにより課題や解決策を共有するほか、局研修・派遣研修の活用・研修内容の見直しを行っていき、本取組については、改善しながら継続していきます。					
貢献度	A 貢献している							
方向性	II 改善しながら継続							

4 令和6年度の主な取組結果

15

基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保							
施 策 23	持続可能な経営基盤の確保							
取 組 60	財政基盤の強化に向けた検討							
取組の概要	将来的に人口減少などによる水需要の減少や、老朽化した施設の更新などによる事業費の増加が見込まれています。そのような将来の事業環境を見据え、適正な水道料金・下水道使用料のあり方や適切な資金の活用方法を検討するとともに、老朽化した施設の更新のため、財政的な検証を踏まえた効率的・効果的な計画を検討します。							
指標分類	指標名 説明	目標・実績	R3	R4	R5	R6	R7	策定目標値
設定なし		目標値						
取組内容の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・水道事業及び下水道事業について、水道料金制度及び下水道使用料制度等のあり方について経営審議委員会及び部会で議論しながら検討を進めました。また、工業用水道事業については、令和7年4月からの契約水量見直し及び新料金制度導入（一部は令和7年1月）に向け、府内調整や関係条例の改正を行いました。 ・企業債の発行方法等について、水道事業会計、工業用水道事業会計及び下水道事業会計における令和6年度同意分の公的資金による借入れは、元金均等償還・据置期間2年で実施し、民間資金による借入れは、満期一括償還で実施しました。また、下水道事業会計については、民間資金による借入れの一部をグリーンボンドでの資金調達にて実施し、通常の市債発行に比べ、年利率0.02%低くなり、後年度の公債費負担を軽減しました。 <p>併せて、累積資金の効果的な活用について、令和6年度は、前年度に引き続き水道事業、工業用水道事業及び下水道事業について大口定期預金等により運用を行った結果、金利の上昇等により前年度約50万円から増加し、約4500万円の運用益を得ることができました。また、工業用水道事業における債券運用といった、新たな手法による資金運用を取り入れたことにより約100万円の運用益を得ることができ、安全性を確保しながらも効率的な資金運用を実施しました。</p>							
達成度	3	目標をほぼ達成	今後の方向性	今後の人口減少などによる水需要の減少や、老朽化した施設の更新に伴う費用の増加に加え、人件費や原材料価格などの高騰により、今後の上下水道事業の経営は厳しさを増すことが想定されます。このため、水道料金及び下水道使用料制度等のあり方について引き続き検討を進めるとともに、現金預金残高や金利の動向に注視し、計画的かつ効果的な資金調達の方法や累積資金の活用を検討します。				
貢献度	A	貢献している						
方向性	II	改善しながら継続						